

平成27年度第2回南国市行政計画審議会 議事録 <第二部>	
日 時	平成27年6月2日(火曜日) 15:00~16:20
会 場	南国市役所 4階大会議室
出席者	別紙名簿参照(委員30名中、24名参加)
議 題	<p>【第二部】南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(案)について</p> <p>(2) その他</p>
配布資料	<p>《南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略の資料》</p> <p>【資料1】まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像(骨子)</p> <p>【資料2】まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子(案)</p> <p>【別添資料】図表1(南国市の人口の推移等)</p> <p>【参考資料】杉並区の高齢者施策について</p>
会議の内容	<p>【第二部】南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略</p> <p>(会長) 二部は南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略について。南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について事務局からの説明。</p> <p>(事務局) まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(案)について説明。</p> <p>(会長) まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(案)についての議論をする。前回の総合戦略のスケジュールについて、南国市さんの場合は人口ビジョンと総合戦略を県よりも早いペースで策定し、7月中旬ぐらいには、出来上がり、パブリックコメントというスケジュールになっている。今日初めてその人口ビジョンと総合戦略の骨子を示されたが、社人研、国立社会保障・人口問題研究所の人口予測に照らし、ご当地の2060年の人口をどのようにしていこうと考えるのか、これに関して意向、意見を。</p> <p>人口がどれくらい要るべきかに対し、総合戦略がその裏付けとなり、それぞれの基本目標、それぞれの施策が、KPI(数値目標)を掲げて、その数値目標を達成すると人口ビジョンが自動的に達成できる。というような作りになっていなければならない。まずどちらが先かということ、人口ビジョンが先だということになる。また人口減をどう食い止めていくか、その時に少子高齢化をどう食い止めていき、子育て環境を良くしていくか、また住居環境をどう見ていくか、さらには仕事をどう作っていくか、色んな意見があったが、総合戦略には、かなり細かい内容があり、具体的にそのような項目も出ている。この総合戦略をどのように見るかという点もひとつポイントになってくる。基本目標4は「時代に合った地域をつくり、市民の安心した暮らしを守る」、国の方はここに地域間連携がさらに入っていく</p>

ので、南国市さんの場合は「近隣市との連携の強化」が（５）である。

・地域間連携について参考資料参照

地域間連携の事例として、東京都杉並区と静岡県が地域間連携を結んだケースがある。この目的は、高齢者が増えていく杉並区において、例えば特別養護老人ホームのキャパシティが杉並区のキャパシティを超えてしまう。この超えてしまう高齢者を静岡県の方に受け入れてもらう。そのために特老ホームを立てる費用を杉並区の側で全部ではないが用意する。静岡に対してその建設費用を出すというようなことまで踏み込んだ地域間連携の実例がある。今までの常識をあまり引きずることなく、思い切った政策施策を打っていかなければ、これまでの人口減少の歯止めは、実現できないのではないのか。そういう予想のもと、各地域は相当思い切った案をたくさん出し始めているということも踏まえ、事務局から説明のあった内容について、皆さんの南国市としての意見、質問を。

（委員）人口問題について、各論では挙げられているが、南国市自体、市民自体が南国市に住んでいるという喜びよりも自信がない、喜びがないのではと思う。20数年前の南国市の体質から現代は大きく南国市の行政そのものが体質改善されている。かつては、固定資産税も南国市は県下で一番高いようなイメージが全県下的にもあり、南国市民自体もそのイメージから抜けきれていない。「南国市のまち・ひと・しごと」という部分でもう一步、南国市はサンライズであり、輝いていると。行政だけを考えても、20数年前は500人いた職員が今、410人程に減っている。行政サイドも体質改善しているが、市民はまだ南国市に住んでよかったという喜びを持っていない。南国市民は10分で空港、高速へいける立地に恵まれているが、それを恵まれているというものが無い。こうしたビジョンを掲げる前に南国市は「輝いている」と自信を持ってもらいたい。子育てにおいて、保育所も保護者のニーズに合った保育が今、推進されているが、そのようなことを市民はあまり知らない。観光においても、観光資源がないと思っているが、市民自体が国分寺のよさや岡豊城跡のよさ、紀貫之の歴史の里などを認識していない。また西島園芸団地にしても、誇りに思っていない。南国市に住んで喜びがあるというものを、お互いに認識しあい、今は「輝いている南国市」という部分を掲げて、取り組んでもらいたい。

（会長）さっきキャッチコピーの話も出たが、それにより皆さんが共感をし、市民が一丸となって良い南国市を作っていくという推進力になっていかないといけない。

（委員）この総合戦略は、国の総合、長期ビジョン、総合戦略に則らないといけないのか？

（会長）基本目標1、2、3、4という国の示している目標に照らし、国

全体が長期ビジョンで総合戦略を作り、都道府県、市町村と全部が連動しているということを念頭に置いている。もともになるのは2060年の人口一億人、これが国の長期ビジョンで、それに対して国が基本目標1、2、3、4でさらにKPIまで、既に設定をしている。それぞれの自治体がどういうふうに分担しながら、意欲的な意見を出して、自分たちのところを、大きく発展していこうとする姿勢が求められている。

(委員) 資料1を見ると、南国市の戦略の全体像とあるが、南国市のところが土佐市に代わっても成り立つのではないか。確かに中を見ていけば、個々のものは違うかもしれないが、全体像で見たら、南国市のものにはなっていない。もっとなにか特化したところがないと、よそには負けてしまう感じがする。

(会長) 南国市として、特徴のある総合戦略がここに落とし込まれていくというのはイメージしていかないといけない。

(委員) 基本目標3にあるように、若者の定住や、子育て支援等、建設的な良い意見があったが、都会と南国市との違いや良さ悪さ、一番は時代も違っているので、子供を増やすことを強固にしようとしても無理だと思う。高度成長期は子供もたくさん生まれ、育った時代だが、やはりそこにも人が大勢増えたヒントがあると思う。子育てや出産では非常に地域の方々のケアを受けた。「やさしい地域」は、素晴らしいことだと思う。人とのつながりが必要で、そういったつながりのある地域を増やしていくというのは大事なことだと思う。

(会長) 政策は重要であるが、コミュニティを支えあう基本の部分は強化すべきであるとの意見である。

(委員) 人口を増やす、観光の方でアピールすることより、商店街や後免の活性化があるが、思い切ったことをしないと、実現できないと思う。後免という街の商店街を復活させたい。後免という町、後免の商店街に人、店を開く人を集めたいと思った。後免の名前の由来だが、税金を免除されたというところから後免という名前がついたとのこと。ただ、法律上税金を免除することは無理だと思うので、市が助成金を出し、店を出す人へ支援してくれたらよいと考えた。また、そのためには南国市さんの協力が必要。例えば、これぐらいの収益をあげられたら、5年間続けられたら、さらに助成金を出す。目標とのお店を出す期間や、それに合わせた助成金をつくり、市を挙げて支援することで、店を田舎で出そう、また戻ってこようという経営者の方も増えるのではと思った。観光名所になっても、後免町を復活させないと、ただのがっかり名所になってしまうと思うので是非考えほしい。

(会長) 特徴をいかに出していくか、おそらくこの辺から行政と一般の委

員会での意見が対立をしあうだろう。行政的にみるといきなりは無理だという話になっており、どのようにそれを落としていくのかということだ。ただ一つ言えることは、我々が議論した、色んなアイデアは必ず地域を創生していく上で、特効薬になっていく可能性があると思う。国に対し、支援を求める作りにしようと言っているのだから、無理という言葉はまず前提として使わず、こうしたいということから入るべき。

(委員) 後免町の件で、3%の消費税が導入された当時、租税御免町ということで消費税御免町にしないかと提案したが、当時は完全にコンサルタントが作っており、次の会の時には抹消された。後免のインパクトをほんとに活かすことを本気で考える。例えば「ごめんシャモ」が今出ているが、インパクトのあるネーミングによって、この町が元気になるのでぜひもう一回考えたらと思う。

(会長) ほかに意見は。

(委員) 公民館活動をしており、子供会やおやじの会、若いお母さんやお父さんと触れ合うことがあるが、その中で若いお母さん方は、南国に住んでいることについて、何の不満もないと言っており、ただその自分たちの持っている技術でお菓子を作る、物を作るなどのエネルギーや技術を出せる場所がない。あと緑の公園がない。この二つを言っていた。また、その後免町商店街のシャッターが閉まっているお店を活用し、自分たちでショップを開けたらどんなに良いだろうと言っていた。以前、広報に空き店舗を使った出店について出たと思うが、ピンポイントで子供会のお母さんや学校とタイアップすると若い世代が動くと思う。

(会長) ストーリー性がすごく出ており、親子や子供、教育や食育などが全て絡み、南国市の持っている強みとつながっていくと思う。それと空の玄関口が近いので、後免町商店街というのは決して日本中から見て距離があるわけではないと思う。協働の森、協働の海というコンセプトが最近出始めているが、協働の空となっていく、そんなコンセプトも持ちうるのではないか。さらに前向きな意見を踏まえて、人口ビジョンを考えなければいけない。パターン1、パターン2、パターン3。パターン1だと2060年の南国市の人口は、3万人を切る予測であったが、これで良いのか、あるいはパターン3になると3万7千数百人。こういう人口に設定をしようとするのか、5万人は絶対に死守するという方向で考えるのか。2060年どうなるかではなくて、どうするかを皆さんで議論し、どうするかに対し、意欲的なアイデアをクリエイティブにぶつけ合い、それをKPIまで落とし込めれば、南国市ならではの非常に色が濃くなった総合戦略になるであろうと思う。その点を考慮し、ご意見を。

(委員) 後免商店街の資源をいかに活用するについて、その際に12ページ

に直販所の機能強化とあるのが、その直販所は南国市にあるのか、さらに、後免には50～60年の歴史の土曜市があるが、現在は衰退傾向にあり出店数はかなり減少している。だが直販所、農家の所得向上というところで、土曜市をもう一度見直す価値はあるのではないかと思う。実際に農家さんが対面販売するというのが全国的にも流行っている部分もあり、そういう面で先ほどあったように、お母さん方が作ったものの販売などでもできると思う。実は、そこで大学との協働が必要で、大学生が野菜を作ったものを、土曜市で販売するという話を今、調整している。このように後免の商店街の方でも、何か新しい行動や活動を行っていくのであれば、大学生も絡めるような仕組みも、もしかしたらできるのではないかと思う。

(会長) 今、後免町の活用に関して、あるいは、関わりに関して色んな意欲的なアイデアをいただいた。

(委員) 12ページの直販市の関係だが、現在、飛行機を高知空港で降りて、多くの県外の方は高知市に向かわれることが多い。直販市の関係から後免の中、あるいは飛行場に近いところ、後免の町に直販市と食を考えたらいいと思う。時間帯があるが、飛行場を降りたお客さんが、そこで食事をして高知市で用事をしてもらおう。高知市で用事が終われば飛行機に乗って帰る。その時に南国市で食事をして帰る、農産物など買い物をして飛行機へ乗ってもらおう。今は用事も食事も買い物も高知市でして飛行機に乗って帰る。南国市は素通り。この直販所の強化という一環で、そこに食を絡めた直販所を作る。直販所の草分け的なものが、かざぐるま市で、農協さんがやられた部分があって県外から相当勉強にこられた。今治市はグレードアップしてやっているようだが、南国市でとどめるというアイデアで、直販市の位置づけを考えたらいかがだろうか。

(会長) 相当に要素あり、実績もある。それぞれを補正化させながら繋げていくことだと思う。今治のさいさいきて屋の規模のものは実際できる、JAでやっているかざぐるま市がお手本になっている。さらには海の方で、そういう直販的なもの、あるいは食、魚を中心とした直販のレストランなどを開設できるとしたら、海から山の幸、また空港中心にして食のナントカ街道というのは作ろうと思えばかなりできると思う。今、日高村が一生懸命頑張っているが、その要素がこれだけあるということを、皆さんで議論し、全体を紡いでストーリー化し、全体の価値を最大化していくためにどうしたら良いか、そこから雇用の創出や定住人口をいかに増やしていくかという話になっていく。まさにこういう場で議論している甲斐がある。今日の議論は無視されることはない、みんな書き込まれていくように、動いていかないといけない。

(委員) 農業関連のことについては、基本目標で安定した雇創出する

ということで、私どもがこれからどうしなければいけないのかという議論の中身をだいぶ書いていただいたので、それは後とし、かざぐるまのことを話す。この直販店は、平成9年から、かれこれ20年が近づこうとしている。この当時は、高知県園芸連を中心に系統出荷で量のまとまったもの、規格が整ったものとかということで県外へ送っていた。ただ、農家はたくさんの商品を作る中で、まとまらないものや規格外のものを何とか利用して、所得を上げたいということから、直販所が出発している。小さい単位で小農家であってもできる直販所、そして年配の方、あるいは特に女性の方が元気で農業やっていくためには、家庭菜園でも良いので、採ったら出せる場所ということで始まり、この組織の取り組み方が広がり、南国から県外までいった。実際問題、拡大するには、総合的な取り組みを考えないといけない。加工施設の充実とレストランの併設した総合施設に転換することによってまだまだ売れるものが増えると思いい検討中している。また、南国市には昔から八百屋といわれるぐらい多くの農産物があり、それを十分アピールできるように直販所丸ごとブランド化というようなことを考えている。農協の役員会でも一回提案をしているが、場所的なことや、南国市の規制の中でもあったりする。総合的に検討していかないと、前に進まないところも多々ある。行政、地域をあげて、施設なり、取り組み方を考えていくことが大事だろう。ただ、他の直販所と違い、自分たちが作ったものを売るというのが基本路線の内容になっている。

(会長) 今、ご検討中の総合的な施設に関しては、今までの議論を踏まえて考えると、かざぐるま市の拡大発展ということを目指し、今のような総合的な施設の設置に関してもぜひ前向きにご検討いただき、さらに膨らましていき、市として全面展開をしていくような議論をしていただければと思う。

(委員) 集落活動センターでチーム稲生を立ち上げ今年で丸1年となる。地元農協の婦人部の方たちが中心となり、農協さんの倉庫を借りてびわのお茶を作っている。また、同じくかざぐるまのチームと話していただいている。高速から降りてすぐの風の市も先だって課長さんと話をし、5月の連休には今までないくらい増えた。やはりそういう土曜市や、かざぐるま市、風の市、そういう市を中心とした産業も大事ではないかと。それと、昨年度、南国市が企画した空の日があったが、それに稲生から桃の加工品を持って行った。最初は11月に桃アイスが売れるのかなと。ゴメンジャーが来ていたが、意外と南国市の特産品は出ていなかった。おかげさまで桃アイスは午前中にほとんど完売。一個200円で市役所でも販売させていただいているが、在庫がなくなり、300個を現在作っている。ここでも集落活動センターチーム稲生で婦人部が農協の農家の方とタイアップし、規格

外の商品をアイスにする。1,280個の昨年度に対して、今年は2,000個を目標に作っている。ぜひ市と連携した企画をしていかないといけないと思っている。

(会長) 集落活動センターはチーム稲生が立ち上がり、こういった小さな拠点が複数でき、やがては連携をさらにしていくことになる。基本は加工して付加価値を上げていくという、そういうことが先ほどの、かざぐるま市の話ともつながっていくのだろう。付加価値の最大化というところを含めて、知恵の出し所ではないかと思う。今日、南国市らしい意見が徐々に始めている。おそらくこのたたき台は、基本的にこれまでの政策、施策の延長線上で、事務局がたたき台として示されたと私どもは考えたいと思う。いろいろな意欲的なアイデアも出たので、最大限取り入れていただき、少しバージョンアップしていただくことを次回お願い申し上げたいと思う。同時に、それぞれのお持ちのアイデアなどを関連組織でお帰りになられた後、議論していただき、結果を事務局にもお寄せいただきたい。もちろんその採否など、どこまで総合戦略に反映できるのかは、また皆さんでご披露しあいながら、次回整理をさせていただく。人口ビジョンに関しては、先ほど色んなデータをアンケート等を実施することにより集め、次回までに先ほどのパターン1、2、3、そのうち行政側の思いを反映させ、1回目のこの委員会で出たご意見、あるいは今日のご意見を踏まえ、だいたいこのあたりにすべきではないか、という数値も提案されることになると思う。ぜひ、その点についてもご意見をお寄せいただき、次回の提案に対して、反映ができるよう、皆様も積極的にこの総合戦略の策定に関わっていただきたい。

(事務局) 次回の会議日程の案内

(会長) 次回、総合計画は議論せず、後半の二部のところだけを、議論しますので、人口ビジョンを含めて議論になっていくというふうにご理解をください。それでは長時間、活発なご議論いただきましてありがとうございます。次回までに皆様の有意義なご提案をお待ち申し上げます。どうもありがとうございました。

以上